

「JENESYS2.0」

中国大学生訪日団第23陣

訪問日程 平成27年10月27日（火）～11月3日（火）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第23陣100名が、10月27日から11月3日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：朱丹（シュ・タン）中国日本友好協会副秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、大学訪問など交流の場を通じて、日本の大学生や市民との親睦を深めたほか、日本の環境・農林業・経済・科学技術・社会・歴史・文化等が体感できるような施設や、地方都市の訪問を通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

10月27日（火）

成田国際空港より入国、オリエンテーション

10月28日（水）

共通：植物工場の可能性と課題に関する講義

第1グループ 環境：国際基督教大学訪問・交流

第2グループ 農林：東京大学 大学院農学生命科学研究科・農学部訪問・交流

共通：歓迎会

10月29日（木）

岡山県へ移動、真庭市のバイオマスタウン構想に関する講義・バイオマス関連施設視察

10月30日（金）

共通：吉備津神社・岡山後楽園見学

第1グループ 環境：岡山大学 環境理工学部訪問・交流

第2グループ 農林：岡山大学 農学部訪問・交流

10月31日（土）

旧閑谷学校見学、兵庫県へ移動、人形浄瑠璃鑑賞、鳴門渦潮見学、和風旅館での日本文化体験

11月1日（日）

アサヒ飲料株式会社明石工場視察、東京都へ移動

11月2日（月）

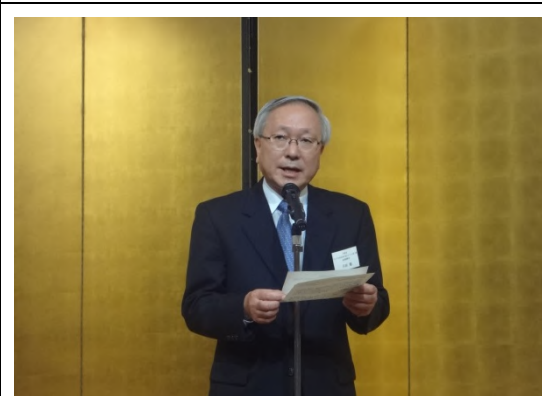
芝浦水再生センター視察、商業施設視察、皇居・二重橋見学、歓送報告会

11月3日（火）

第1グループ 環境：羽田空港より帰国

第2グループ 農林：浅草寺・成田ゆめ牧場見学、成田国際空港より帰国

3 写真

	
10月28日 植物工場の可能性と課題に関する講義 (東京都)	10月28日 植物工場に関する講義での質疑応答 (東京都)
10月28日 听取关于植物工厂的可能性及课题的讲座 (东京都)	10月28日 关于植物工厂的可能性及课题的讲座 答疑 (东京都)
	
10月28日 国際基督教大学訪問・交流 (東京都)	10月28日 国際基督教大学訪問・交流 (東京都)
10月28日 访问国际基督教大学并进行交流 (东京都)	10月28日 访问国际基督教大学并进行交流 (东京都)
	
10月28日 東京大学 大学院農学生命科学研究科・農学部訪問・交流 (東京都)	10月28日 歓迎会 川田勉 外務省アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課地域調整官の挨拶 (東京都)
10月28日 访问东京大学大学院农学生命科学研究科・农学部并进行交流 (东京都)	10月28日 欢迎会 川田勉外务省亚洲大洋州局中国・蒙古第一課地域調整官致欢迎辞 (東京都)

	
10月28日 歓迎会で日本の大学生と交流（東京都）	10月29日 真庭市のバイオマスタウン構想に関する講義（岡山県）
10月28日 欢迎会 跟日本大学生进行交流（东京都）	10月29日 听取真庭市关于生物质产业绿色低碳构想的讲座（冈山县）
	
10月29日 真庭バイオマス発電株式会社視察（岡山県）	10月29日 真庭市でメタン発酵プラントシステムの視察（岡山県）
10月29日 考察真庭生物质发电株式会社（冈山县）	10月29日 在真庭市考察甲烷发酵设备系统（冈山县）
	
10月29日 銘建工業(株)で木質ペレット製造現場の視察（岡山県）	10月30日 吉備津神社見学（岡山県）
10月29日 考察铭建工业株式会社的木质颗粒燃料生产现场（冈山县）	10月30日 参观吉备津神社（冈山县）

	
10月30日 岡山後楽園見学 前列左から4人目より大森雅夫岡山市長、朱丹団長、江田五月会長夫妻、繁定昭男岡山副市長を囲んで (岡山県)	10月30日 岡山大学環境理工学部訪問・交流 (岡山県)
10月30日 参观岡山后乐园 第一排左四起依次为大森雅夫冈山市长，朱丹团长，江田五月会长夫妇，繁定昭男冈山副市长 (冈山县)	10月30日 访问岡山大学环境理工学部并进行交流 (冈山县)
	
10月30日 岡山大学農学部訪問・交流 (岡山県)	10月31日 旧閑谷学校見学 (岡山県)
10月30日 访问岡山大学农学部并进行交流 (冈山县)	10月31日 参观旧闲谷学校 (冈山县)
	
10月31日 人形浄瑠璃鑑賞 (兵庫県)	10月31日 鳴門渦潮見学 (兵庫県)
10月31日 欣赏人形净瑠璃 (兵庫県)	10月31日 参观鸣门涡潮 (兵庫県)

	
11月1日 アサヒ飲料株式会社明石工場 視察 (兵庫県)	11月2日 芝浦水再生センター視察 (東京都)
11月1日 考察朝日飲料株式会社明石工場 (兵庫県)	11月2日 考察芝浦污水处理中心 (東京都)
	
11月2日 皇居・二重橋見学 (東京都)	11月2日 歓送報告会で訪日成果の発表 (東京都)
11月2日 参观皇居二重桥 (東京都)	11月2日 欢送报告会 团员汇报访日成果 (東京都)
	
11月3日 浅草寺見学 (東京都)	11月3日 成田ゆめ牧場見学 (千葉県)
11月3日 参观浅草寺 (東京都)	11月3日 参观成田梦牧场 (千葉県)

4 参加者の感想（抜粋）

○印象深かったこと：①日本が長期的視点で問題をとらえているということ。植物工場に関するセミナーの際、わが団の学生が質問した「投入コストが大きすぎるのではないか」という問いに対し、古在豊樹先生は「今かかっているコストと 30 年後のコストは同じではないはずだ」と繰り返し強調された。これこそ長い目で物事を見るということではないだろうか。②文化の深淵に根ざした信念が、日本人の心と魂を極めて豊かで満ち足りたものにしていること。東京に宿泊していたある夜、私はホテルの近くを散歩していたのだが、辺りがまばゆいネオンサインや街の灯で照らされている一角に、そこだけ何の燈火もなく、高層ビルの隙間にひっそりたたずむ古い神社を見つけた。仕事を終えたばかりの人々はせわしなく行き交うばかりで歩を止める気配すらない。しかしそこに、世の荒波にもまれた感じの女性が一人突然立ち止まり、にぎやかな通りを隔ててその静かに黙する神社に向かい、丁寧に手を合わせたのだ。彼女の穏やかで慈しみ深い表情や態度、恭しいお辞儀とうつむくシルエットに、私は活気あふれる華やかな大都会に漂う一縷の古き良き匂いを嗅ぎ取ったのだった。文化とはまさにこうしたものだと思ふ。知らず知らずのうちに、いつの間にかその民族の持つ信仰と力を感じさせ、何気ない機微の中からささやかな共鳴と感動を人に与え得るのだ。

周囲に伝えたいこと：日本の公共インフラの素晴らしさ。都市と地方の格差は中国と比べ格段に小さく、それゆえ日本中どこにあっても良質なサービスを享受できる。他には、日本人が自らの仕事に対し本当に真面目で熱心なこと。そして同世代の日本の大学生たちとの交流を通じ、自分が心から感じた彼らの友情と親愛の情。私たちは共通の好みや専門を持つ者同士、たとえ言葉は通じなくとも、共に奥深い文化を有している。また、岡山大学での salinization（塩類土化）についての講義は、自分にとってまさに「目からうろこ」であった。

○この度の日本での交流訪問において最も印象的だったのは、アサヒ飲料株式会社明石工場の見学だった。以前自分は青島のビール博物館に行ったことがあったので、今回は生産ラインや滅菌技術などにさほど関心を惹かれることはなかった。似通っている部分も多かったからだ。ところが、そんな私でも驚くようなことがあった。工場のごみ分別と回収、そして集めたペットボトルを最後には衣類などへリサイクルするという、その意識と技術についてだ。わが国では、飲料メーカーはただ単に製品を作るだけなのに、日本ではいついかなる時でも環境への配慮を怠らない。飲料品を生産する工場であっても、環境への貢献を惜しまないのだ。広く知られているように、日本もかつては恥ずべき環境破壊を経験してきている。しかしその危機を乗り越えた後、日本人はそれをうまく管理する真の道を探り当てたのだ。我が中国も当然今の汚染の後に続く正しい道へと歩みを進めていくべきではないか。

帰国したら、私は環境意識について更なる啓発を行っていききたい。環境破壊がもたらす悲惨な結末と一人一人の環境意識の大切さ、中国を守り地球環境を守っていくことについて、より多くの人に知ってもらいたいと思っている。

○今回の 7 泊 8 日の旅は、一分一秒、すべての瞬間そのどれもが心に残っていると言えるのだが、もしどうしても一番印象深かったことを挙げなければならないとすると、それは岡山の吉備津神社ということになるだろう。

中国でも私は少なからずそうした宗教的な場所を見学したことがあった。だがこの吉備津神社は、私にとって全く新しい体験だった。静謐で質素で、それでいて品のある空気感は、俗界とは異なる端正で厳かな雰囲気醸し出し、木造建築と水の流れがもたらす東洋特有の氣に、私は強烈な共鳴を覚えたのだ。

中国に戻ったら、私は日本に来たことのない多くの同級生たちに自分が見聞きしたことを語って聞

かせたいし、本当の日本を教えたい。同時に私自身も、今回学び取った知識をより良い形で勉強に活かし、これからの中日友好にも貢献していければと思う。

○今回の訪問で心に残ったことはたくさんあるが、今なお胸によみがえるのは温泉旅館での一夜である。5、6人で一緒にひとつの部屋で寝たこと、生まれて初めての畳の上での就寝、清潔で心に沁みる温かさだった。そして夕食は伝統的な和食のお膳、露天風呂に身を浸せば一日の疲れもきれいさっぱり抜けていくのが感じられた。ここは、浮ついたせわしない現代社会とは別の場所にある、ゆったりと身を委ね心を解き放つことのできる港のような所だった。

帰国後、私は周りの人たちに日本人の仕事に対する熱意と責任感、職業意識について伝えたいと思っている。これは中国人には欠けていると思われる部分だからだ。

○今回の訪問は、私に日本の伝統文化や食の魅力を教えてくれたばかりでなく、和風建築や風物の精緻さと優美さをも体感させてくれた。また環境分野に関するさまざまな知識も得ることができた。

私の専攻は環境なので、真庭市のバイオマスツアーと芝浦水再生センターの見学がやはり最も心に残っている。真庭市のバイオマスエネルギー産業は、すでに完全なる好循環を構築していたが、中国にはただ小規模な試験的施設がいくつか設けられているに過ぎない。私は帰国したらこの分野に関する資料に当たり、真庭のノウハウに学びたいと考えている。水再生センターも中国国内の污水处理施設とは異なる点が多々あった。これは双方の水質の違いに起因するという点も含め、給排水の専門分野に関するこれからの自分の学習にとって大変有益だった。

日本の伝統文化では、人形浄瑠璃が一番気に入った。これまでも布袋劇や人形劇は観たことがあったが、人形浄瑠璃は全く新しい体験であった。特に太夫は非常に集中して演技しており、情感のこもった美しい声は大変深く印象に残った。

日本の食事では、寿司や牛肉、天婦羅など数々の和食を味わえた。バラエティー豊かでしかも美味、食事ごとにその形態もさまざまだった。まさに一週間のうちに各地の珍味を堪能したと言える。

日本人の優しさと親切さは、私たちが最も感動させられたことのひとつであった。私が乗っていた2号車の通訳さんは、とても優しく温かい人柄で、いつも細やかにそして親身になって、私たちが会えるかもしれないトラブル一つひとつに思いを致し気遣ってくれた。中国語もとても上手で、大事な宴会などの場面ではいつも通訳を任されていた。今回彼女と出会えて本当にラッキーだったと思っている。日本側の手配も実に行き届いていた。どのプログラムにもきちんと資料が用意されており、生活面でもよく面倒を見てくれた。生活習慣の違いから生じる私たちの小さなミスにも大らかだった。街を歩けば、車はいつも停まって私たちを先に行かせてくれたり、コンビニで最も多く耳にする言葉といえば「ありがとう」と「すみません」だったりした。これら小さな出来事は今なお私の中で鮮やかな記憶であり続けている。

最後に、日本の大学生との交流について。彼らは流暢な英語を話し、喜んで私たちと交流してくれ、日常のあれこれについて共に語り合うことができた。日本でこうした新しい友人を得られたことをとても嬉しく思っている。

7日間は短かったけれど、日本の旅で出会ったささやかな出来事含めそのすべてが、私の胸深くに刻まれている。私は周りの同級生や友人たちに、ここでの感動と素晴らしさを一つ残らず話してあげたい。中日の若者がこれからも多く交流できること、中日の友情が末永く続くことを願っている。

○「植物工場」についてのセミナーを聞いて、日本では国民、政府、研究者を問わず、その誰もが環境の保全に対し深い見識と理念を持っていることを思い知らされた。とりわけ国民の環境意識の高さ

は中国のそれを上回っている。日本の学生たちとの交流で感じたのは、言葉の壁は確かにコミュニケーションの妨げなのかもしれないが、決して決定的な障害ではないということだ。互いに妙な先入観やこだわりを持たず、相手への好奇心や思いやりさえあれば、たとえボディランゲージに頼ったとしても楽しく語り合えるものなのだから。

○日本の高水準なインフラ整備の状況を目の当たりにし、大きく視野が広がった。中国も大いにこれに習い参考とすべきではないだろうか。今回の訪問で見学した工場や水再生センターなどの技術施設の先進レベルにも大変驚かされた。私もいずれは日本の環境保全、物の循環利用、省エネといった分野での先端技術を学ぶ機会を得て、中国にも広めていきたいと思う。また、この度訪れた岡山県真庭市は私が最も興奮させられた所である。私はここで循環可能な木材産業の運営とは如何なるものかをしっかりと知ることができた。特に重要だったのは、かつて真庭が置かれていた状況が今の私の故郷とそっくりだということだ。私の故郷は、まさに今深刻な人口と人材の流出、伝統産業の衰退に苦しんでいる。しかし一方で広い土地と林業資源や鉱物資源に恵まれている。真庭の経験に学び、これを活かしていくことができれば、故郷の町おこしにも希望が見えて来るのではないかと感じた。

私はまた、日本の文化にも魅了された。バラエティーに富んだ美食の数々、伝統的な建築物、心惹かれる風俗習慣など、私は今回の訪問でこれらを一通り体験することができた。しかし「広く浅く」は自分には合わない。私はこれから、もっと深く日本について知りたいし、もっとたくさんの場所にも行ってみたい。そして一人でも多くの良き日本人と知り合いたいと思う。いつか再び日本を旅すること、ひいてはここで学び、働き、暮らすことを強く願っている。

○最も印象深かったこと：古在教授が質疑応答時におっしゃった「若い人はあまりコストにこだわってはいけない。資源の利用率にこそ目を向け、未来を見据えなさい」との言葉が心に残っている。これは一人の教授として学生に向けた教える言葉であり、更には一人の学者としての価値観であって国や社会に対する責任感や使命感の表れでもあるのだ。心から敬服させられた言葉だった。

伝えたい事柄：日本の科学技術や先端技術面における成果。また日本の歴史と伝統文化、および流行文化のこと。そして日本の経済水準と人々の心のありようについて。

○今回の日本での交流で大学や工場を訪れたり、伝統文化に触れたりする中で、私がまず驚かされたのは、日本の環境の素晴らしいまでの快適さだった。規模の大小を問わず日本中どの場所でも、人であろうが物であろうが皆とても清潔できちんとしている。日本人はまた礼儀正しく謙虚で、人に対しても優しく面倒見がいい。とりわけ今回接した日本側のスタッフや学生たちがそうだった。その他、日本は高い科学技術力を有し、交通も便利で資源が存分に活用されていた。そして最も大切なことは、環境保全が徹底されていることだ。真庭市での見学は、地元の森林資源を基本に、それらを効果的に管理し利用することで、非常に高い価値を生み出し、同時に多くの周辺産業を派生させ、ついには典型的なバイオマスシティをも創り上げている様子を私に教えてくれた。また、岡山大学農学部を訪れた際には、科学技術が現代農業の発展に多大な貢献をしていること、農業の生産過程や日常生活における実際問題をしっかり解決していることを肌身で感じた。科学研究とは、社会の進歩と人類の生活ニーズに導かれつつ、真面目にコツコツと一つずつ現実問題を解決していくべきものであり、研究を行うということは、常に根気強さと情熱を持ち続け、且つ未来を見据える長期的な視点で物事を考え、人類の発展に貢献していくことだと思っている。

これまで中日両国が苦労の末に築き上げてきた成果を大切に、今後の学習においても交流や協力を密にしつつ、互いの長所を取り入れ短所を補い合っていければ、と思う。中日両国の友情の未来が

更に開けて行くことを願う！

○この度の訪問で、私のグループは主に農林分野における交流を行った。東京大学と岡山大学での学生同士の交流では、互いの研究において多くの共通点とそれぞれ革新的な部分があることを発見した。彼らのプレゼンとその後の交流は、自分の研究に良い刺激を与えてくれるものだった。岡山大学では、温室を見学したり、彼らの研究成果である果物を賞味しつつ学生たちと深く交流したりして、彼らの農業研究に関し深く知ることができた。

日本に来る前、日本ではごみを6種類に分別するらしいとだけ聞いていたのだが、来てみると、分別の種類は市町村ごとに異なっているものの、少なくとも3種類以上には分けなければならないこと、街全体で住民の環境意識が極めて高いこと、行政側もごみのリサイクルに対し巨費を投じてシステムを整え、さまざまな生活ごみを存分に回収再利用していることを知った。

日本では工場でも資源のリサイクルという点で多くの目覚ましい成果をあげていた。例えば真庭市では、バイオマス利用という、環境を守り持続可能な発展を実現する上で大胆な革新的取り組みをしていたし、アサヒ飲料株式会社明石工場などは、環境保全がメインの会社ではないにもかかわらず、ボトルの設計から廃棄物の再利用に至るまで、全生産工程において常にエコと環境について配慮がなされていた。また芝浦水再生センターでは、高度に成熟した污水处理技術を駆使し、水資源の存分な活用が図られていた。

以上のことから、私にとってはこの日本全体の環境意識の高さこそが最も印象深かった点である。とりわけごみの分別と回収、再利用に関しては、私の周囲の友人たちにも影響を与えるものだろう。なぜならこれらは毎日の身近なことであり、人々の環境意識を高めやすい事柄だからだ。中国は今まさに急速な成長段階にあり、環境資源の利用においても、無駄や汚染といった問題を避けられずにいる。国民の環境意識の向上が何より求められているのだ。

○今回の日本訪問での私の収穫と感想のまとめは以下の通りである。①日本は先進国として穏やかな経済成長の状態にある。かつての高度成長を経て、今はそのスピードも緩やかなものとなっているため、落ち着いた経済成長と社会的安定が日本の今の基調である。②日本では各地域の特性を活かした合理的な街づくりが行われている。例えば真庭市では森林資源が豊かであることから林業を発展させ、バイオマスシティの構築を進めてきたが、これはとても理にかなっている。一方東京は他の多くの都市同様土地と家屋の値段が極めて高く、私はむしろ日本の小さな町の方に心惹かれる。③生態保護とクリーンエネルギー。日本におけるごみの分別と污水处理は大変印象的だった。また太陽光エネルギーやバイオマス資源の積極的活用なども日本の未来への展望を体現したものといえよう。④真庭市の訪問では、日本の国民の社会的責任感の強さと若い人たちの使命感の強さを見せつけられた。民族の未来と国の発展は自らの責任であるという捉え方は、我々中国の若者にとっても同様であるはずだ。⑤歴史文化の伝承と自然景観の保護。旧閑谷学校は、日本が歴史的に教育を重視してきたことを表しているばかりでなく、日本における中国の儒教思想の影響を反映しており、まさに中日両国間の深遠なつながりと友情を物語る場所だと感じた。

つまるところ、日本はとても美しく進んだ国で、私はこの国が好きである。だが、私はそれ以上に中国を愛している。中国の発展のために、日本には学ぶべき点が多々ある、という意識を我々若者は持つべきであろう。今回の旅は日本への理解を深める旅であったと同時に、自分自身の責任と使命を再確認させてくれる旅でもあった。中日関係が良い方向へ向かい、友情が絶えず深まっていくことを、そして再び日本を訪れる機会があることを願っている。

○まずは、1日目のプログラムで古在豊樹先生が学生の質問に答える形でおっしゃった「若い人たちはコストについて考えるのではなく、未来に目を向けなければならない」との言葉が、強く心に残っている。私はこの経験豊かな先生から刺激を受けると同時に、先生のご意見に深い共鳴を覚えた。

次に東京大学と岡山大学での交流、アサヒ飲料株式会社や芝浦水再生センターの見学では、日本は個人であれ企業であれ、皆が極めて高い環境意識を共有していることが感じられた。まさに古在先生の言う「未来を見据える」である。とりわけアサヒ飲料株式会社では、工場内廃棄物ゼロを達成していることに大変驚いた。今のような社会にあって、ほとんどの企業が利益至上主義に走る中、アサヒ飲料は利益追求と同時に環境保全にも配慮しているというのだ。思うに廃棄物の処理やリサイクルには少なからぬコストがかかっているに違いない。だがそれでも工場廃棄物の回収を維持し、更には文房具や衣類に再生しているというのだから、感動さえ覚えてしまう。もっとたくさんの企業がこうした良心を持っていれば、環境保護もきっと更にスピードアップするだろうし、環境を守ろうという社会の機運も一層盛り上がっていくのではないかと強く思った。

帰国後は、バイオマス発電のこと、植物工場のこと、微生物による水再生の技術、そしてこれらの技術の中国国内との比較について、同級生たちに紹介していきたい。また友人や家族には、余りにも貴重なこの1週間の旅のことを話して聞かせたいと思う。訪れたのは、一般の観光客なら決して望まないだろう有名観光地とはいえない場所だったが、それにもかかわらずそのどれもがとても有意義だったし、観光客であれば普通はできない、或いはまず絶対あり得ないような体験を数多くすることができた。日本側のプログラムやスケジュール立案の的確さ、綿密さが如何に素晴らしいものだったかについても伝えたいと思う。

○この度の日本訪問で最も印象的だったのは、東京大学と岡山大学での学生同士の交流会、人形浄瑠璃、鳴門の渦潮、そして温泉体験であった。個人的には今回の訪日の主な目的は交流にあると考えていたので、このプログラムで日本の学生と間近で触れ合う機会に恵まれたこと、交流の時間を持てたことで、日本人の生活スタイルやものの考え方、価値観、教育などを新たに知り、外国の友人ができたことが何よりも心に残ったのである。帰国したら、周りの人たちに日本の文化、環境意識、また日本人の人との接し方や仕事振りといった生きる姿勢についても伝えていきたい。そうすることで中国の人々もより高い環境意識を持ち、一人の市民としての責任と義務を理解し、更に国をよくしていこうと思うようになるのではないか。これからさまざまな専門分野の人材が日本に来て学習や交流を行い、日本を参考としたりその優れた面に学んだりしていけるよう提案したいと思う。